

中間評価結果（公表様式）

50

大学名	徳島大学
研究施設名	先端酵素学研究所
拠点の名称	酵素学研究拠点
認定期間	平成 28 年 4 月 1 日～平成 34 年 3 月 31 日

1. 拠点の目的・概要

【目的・意義・必要性】

我が国唯一の酵素学分野の研究拠点として、基礎医学研究者コミュニティと広範な医学応用を望む研究者コミュニティとが、酵素学を共通のキーワードとして、健康・疾患生命科学と医学応用の領域で共同利用・共同研究を推進し、先端酵素学を先導することで、社会的要請に応え、新たな学術研究の展開を図ることを目的とする。

【取組内容・期待される効果】

世界屈指の解析装置を用いたプロテオミクス解析、メタボロミクス解析並びにゲノミクス解析、個体解析を共同利用に供することにより、ゲノムから個体までの情報を統合した網羅的酵素・タンパク質の機能解析を推進する。さらに、病態解明と創薬イノベーション創出に向けた応用研究を推進するとともに、最先端酵素学の知識と技術の提供を通じて研究者の基礎的研究能力を充実させ、新たな学術研究領域の創成とその発展に貢献する。

2. 総合評価

(評価区分)

B：拠点としての活動は行われているものの拠点の規模等と比較して低調であり、作業部会からの助言や関連コミュニティからの意見等を踏まえた適切な取組が必要と判断される。

(評価コメント)

酵素・タンパク質の機能解析関連の施設・設備を共同利用に供し、免疫、糖尿病、代謝において優れた研究成果を上げているが、共同利用・共同研究の件数が多いとは言えない。

今後、共同利用・共同研究の中核となる考え方や研究手法を踏まえ、拠点の魅力を高めていくことが望まれる。

3. 観点毎の評価

①拠点としての適格性
(評価コメント) 酵素・タンパク質の機能解析関連の施設・設備を備え、共同利用に供しているが、外部に対する利便性は十分とは言えない。
②拠点としての活動状況
(評価コメント) 共同利用・共同研究の活動は活発になっているが、共同利用は多いとは言えない。
③拠点における研究活動の成果
(評価コメント) インパクトファクターの高い学術誌への論文発表がなされている。
④関連研究分野及び関連研究者コミュニティの発展への貢献
(評価コメント) 世界トップクラスの研究者による外部評価や助言を踏まえた拠点運営により、関連研究者コミュニティの発展に貢献している。
⑤審査（期末）評価結果のフォローアップ状況
(評価コメント) 大学院生、若手研究者を積極的に受け入れており、拠点活動への参画は増加している。 【以下、該当する拠点のみ】
⑥期末評価結果のフォローアップとして、各国立大学の強み・特色としての機能強化への貢献
(評価コメント) 国際化などの努力による大学の機能強化への貢献が見られる。
⑦拠点としての今後の方向性
(評価コメント) 国内外の研究者との交流をさらに深め、拠点としての強み・特色を明確にすることが期待される。
⑧組織再編に伴う拠点活動の状況
(評価コメント) 今後、研究機関としての体制整備とともに、酵素・代謝学領域の拠点としての魅力を高めていくことが望まれる。